

学術研究機構会議主催アウトリーチ活動

リサーチ・テクノロジードカブエ



「知」をシェアし、
新たな発見をしませんか？

開催日時 * 各日の内容は裏面をご覧ください

2019. 9.4 (水) | 10.2 (水) | 11.6 (水) | 12.4 (水)

各回 19:00 ~ 20:00 (開場18:00)

開催場所

アートエリア B1 <http://artarea-b1.jp>

所在地

〒530-0005 大阪市北区中之島 1-1-1 京阪電車なにわ橋駅 地下1階
京阪電車中之島線「なにわ橋駅」地下1階コンコース

(大阪メトロ「淀屋橋駅」「北浜駅」から徒歩約5分)

「なにわ橋駅」①出入口が最寄りとなります。

※ 直通のエレベーターはございませんので、車いすでお越しの場合は、あらかじめアートエリアB1までご連絡いただきますようお願いいたします。

会場に関するお問い合わせ

アートエリアB1 TEL. 06-6226-4006 (12:00~19:00) ※月曜休(祝日の場合は翌日)

リサーチクラウドカフェに関するお問い合わせ

大阪大学学術研究機構会議(大阪大学蛋白質研究所庶務係) TEL. 06-6879-8594



主催：アートエリアB1【大阪大学+NPO 法人ダンスボックス+京阪ホールディングス（株）】
企画制作：大阪大学共創機構社会学共創本部21世紀懐徳堂／NPO 法人ダンスボックス



令和元年度 第1回 9月4日(水)

ナノ構造で変わり者電子を操る

ゲスト

大阪大学産業科学研究所 田中 秀和(たなか ひでかず) 教授

田中教授は、原子・分子の成長をコントロールし、ナノスケールの人工物質の創製と新機能発現の研究に取り組む研究者です。水が氷になったり、沸騰したりするときには、温度によって分子の集まり方が急激に変化する「相転移」が起きています。このような「相転移」は、物質の中に沢山存在する電子においても観察されます。電気伝導性や磁性を示すセラミックスはその代表例であり、最近ナノメートルスケールの人工物質を作ることにより、その電子の織りなす変わった集団挙動を直接眺め、操り、より高性能のナノ物質を創り出すことが可能となりました。ナノの電子の世界の理解から将来の高性能スイッチング・メモリへの展開を視野にいたれた研究について紹介します。



ゲストプロフィール

大阪大学産業科学研究所附属産業科学ナノテクノロジーセンター 教授 田中 秀和(たなか ひでかず)
大阪大学大学院工学研究科材料物性工学専攻博士前期課程修了、博士(理学)(大阪大学)
主な経歴:産業科学研究所助手、(JSTさきがけ「ナノと物性」研究員兼任)、産業科学研究所准教授を経て、2008年1月より現職。
専門は、ナノテクノロジー(超薄膜、ヘテロ構造、ナノ構造)を駆使した、新材料、新デバイスの創製。

令和元年度 第2回 10月2日(水)

遺伝子・ゲノム・蛋白質と出産、老化、ガンとの関わり

ゲスト

大阪大学蛋白質研究所 篠原 彰(しのはら あきら) 教授

篠原教授は、生き物のDNAの交換反応である“組換え”の分子レベルでの仕組みの解明に取り組んでいます。組換えは様々な遺伝子の組み合わせをすることで、生物の多様性を生み出す進化の原動力になるばかりでなく、DNA情報やゲノムの安定化を促進することで、ゲノムの不安定化により生じるガンや老化などの防止に役立っています。今回は、遺伝子、ゲノム、タンパク質がどのようにヒトを含めた生物の姿、形を決めているのか?ヒトの才能は遺伝なのか、環境なのか?と言った視点から、出産(卵子の老化)、ガン、老化などの遺伝子との関連と言った話題を、最新の研究知見を元に、会場の方々との対話形式での講演を予定しています。



ゲストプロフィール

大阪大学 蛋白質研究所 教授 篠原 彰(しのはら あきら)
大阪大学大学院理学研究科生理学専攻博士後期課程修了、博士(理学)(大阪大学)
主な経歴:日本学術振興会特別研究員、大阪大学理学部助手(シカゴ大学兼任)、同理学研究科助教授を経て、2003年9月より現職。
専門は、分子生物学。

令和元年度 第3回 11月6日(水) 共催:IFReC サイエンスカフェ・オンザエッジ

世界をかけめぐる耐性菌

ゲスト

大阪大学 微生物病研究所 日本・タイ感染症共同研究センター 明田 幸宏(あけだ ゆきひろ) 講師
(大阪大学医学部附属病院感染制御部講師、大阪大学大学院医学系研究科感染制御学講座 講師)

明田講師は、病気の原因となる細菌のゲノム配列を基にした研究を行っています。現在、世界中で抗生物質が効かない細菌(=耐性菌)が大きな問題となっています。この先、有効な耐性菌対策がとられなかった場合、2050年には世界で1000万人ものヒトが耐性菌によって亡くなるという試算が英国のシンクタンクによりなされています。このように世界中で耐性菌は深刻な問題となっていますが、さらに新しいタイプの耐性菌が次々に出現するなど、その拡がりとはとどまることを知りません。今回はその研究結果を交えながら耐性菌の現状とこれからどのように耐性菌対策に取り組んでいくべきなのか、皆さんと議論を深めたいと思います。



ゲストプロフィール

大阪大学 微生物病研究所 日本・タイ感染症共同研究センター 講師 明田 幸宏(あけだ ゆきひろ)
大阪大学大学院医学系研究科細菌血清学専攻博士課程修了、博士(医学)(大阪大学)
主な経歴:微生物病研究所リサーチ・アソシエイト、Yale大学医学部研究員、微生物病研究所助教及び特任講師(常勤)を経て、2015年4月より大阪大学医学部附属病院感染制御部講師、2016年4月より現職を兼任。
専門は、細菌感染学、感染制御学、感染症疫学、ワクチン学。

令和元年度 第4回 12月4日(水)

中国経済のグローバル化の影響ーWTO加盟の20年間を振り返る

ゲスト

大阪大学 社会経済研究所 朱 連明(しゅ れんめい) 准教授

朱准教授は、主に企業・家計などの統計データを使うマイクロデータの分析手法を用いて政策・制度の評価を行っている研究者です。最近の研究としては、中国のミクロ統計データを用いて、中国の貿易・地域政策が企業成長や産業発展などに与える影響に関する、政策のインプリケーションが高い研究に取り組んでいます。今回は、まず中国経済のグローバル化の経緯やその現状などについて紹介していただき、それから中国のグローバル化が中国の国内産業・地域発展及び世界経済・政治に及ぼす影響について、最新の研究成果を取り上げながら、お話をいただきます。



ゲストプロフィール

大阪大学 社会経済研究所 准教授 朱 連明(しゅ れんめい)
横浜国立大学大学院国際社会科学研究所グローバル経済専攻博士後期課程修了、博士(経済学)(横浜国立大学)
主な経歴:京都大学経済研究所研究員、早稲田大学政治経済学術院研究院助教、社会経済研究所附属行動経済学研究センター講師を経て、2019年4月より現職。
専門は、国際貿易、中国経済、応用計量経済学。